

活動名	団体名	ワンダー・ティーンズ(任意団体)
	地域	広島県広島市
	代表者	代表理事 上野 勇葵 代表代理 山岡 亮太
	支援金額	45 万円
活動概要		
<p>社会に不満を持ちながら、自分からは動けない青少年が多くいる中、彼らが行動できる場を提供するのが当団体です。国際交流活動を主に行い、学生がより国際問題を身近に考える機会を創出します。さらに、青少年自身がその問題を解決するために何ができるか考え、目標を設定し、その課題に対して主体的に取り組むことができるようにサポートしていきます。中高生自身が団体運営をすることで、青少年の問題解決能力を向上させます。企画から運営までを青少年だけで行い、「こどもからこどもへ」をモットーとして、青少年による交流の場を広げていきます。</p> <p>・ライブイベント 通年にわたって、広島市中区の広島市青少年センターで 4 回実施。出演者様からは出演料、お客様からは入場料をいただき、その収益は認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに寄付をしました。手作りのイラストのポスターを積極的に作成し、積極的に広報した。出演者、参加者ともに主に高校生だったが、一部に中学生もいました。ライブイベントとあり、参加しやすかったのが要因だと思われます。スタッフ、出演者合わせ、延べ 160 名ほどが参加しました。</p> <p>・文通プログラム 認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパンが支援しているインドなど発展途上国の子どもたちと文通で交流するプログラムに参加しました。参加者は運営メンバー中心ですが、自らと違う立場の人と直接コミュニケーションを取ることで、より身近に子どもたちの問題にふれることができました。フラワーフェスティバルの飲食スペースではお客様にもメッセージを書き添えていただきました。</p> <p>・募金活動・フリーマーケット 通年に渡って天満屋広島店前、福屋八丁堀本店やそごう広島店前などの広島市中心部で募金活動を行いました。普段は運営に関わっていない外部メンバーも含めて、よりさまざまな人が参加しやすいようにフェアトレードチョコレートを配布しながら募金活動を行うなど工夫を凝らしました。</p> <p>・フラワーフェスティバル 5 月 3 日から 5 日に広島市中心部で開催されたフラワーフェスティバルにブース出展。フェアトレードの商品や食品、飲料などを販売。メンバー自身で開発した揚げアイスなども好評だった。フラワーフェスティバルは人通りが多く、多くの方にフェアトレードや高校生の活動に関心を持ってもらえた。</p> <p>◆実施時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年:ライブイベント(広島市青少年センター) ・通年:文通プログラム ・通年:募金活動・フリーマーケット ・5 月:フラワーフェスティバル <p>◆参加人数</p> <p>フラワーフェスティバル:外部含めてスタッフ約 60 名 利用者多数 文通プログラム:10 名 ライブイベント:スタッフ、観客と出演者延べ 160 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:230 名</p>		



フラワーフェスティバルにブース出展



フェアトレードの商品や食品、飲料などを販売

◆実施に伴う効果

高校生自身が自ら動くことで、メンバー自身が自らの課題や組織運用の難しさを学ぶことができた。特に、対外的な交渉は高校生としてではなく、大人と同じ責任が要求されるので、高度なマネジメント能力が要求された。高校生が自ら動く様子を見て、大学生の団体も強い関心を持っていた。

◆苦労した点

決定プロセスをどうするかを特に苦労した。誰が決定の草案を描き、決定し、その決定に対して責任を取るのかというのが非常にあいまいだったので、決定後も問題が発生した際に誰が問題解決にあたるのかということに対しても課題があった。そのため、幾度となく決定が覆されることがあった。その際は、誠実な話し合いをメンバー全体で行うよう努めた。

◆今後の課題・発展の方向性

高校生自身がいかに責任をもって活動をするか考え直す必要がある。高校生は、能力にばらつきがあるので、特定のメンバーに頼る傾向があるが、一人に頼って団体運営を行った場合、その一人が不在時にどう問題を解決するかなど、課題を残した。

◆活動を終えての感想・意見等

活動を行うことでカフェの経営の仕方であったり、どんなふうに宣伝していけば多くの人に買ってもらえるのかなどの社会経験を多く積むことができました。また、この活動を通して多くの人と関わることができ、これからの社会に生かせる経験ができました。